



令和7年9月25日

## お知らせ

|            |                                           |
|------------|-------------------------------------------|
| 課名         | 産業労働部観光課<br>〔「森の芸術祭 晴れの国・岡山」<br>実行委員会事務局〕 |
| 担当・<br>連絡先 | 宮崎、山下<br>内線 5281, 5287<br>直通 086-226-7843 |

### 奈義町のサンドラ・シント氏のアート作品が完成し、 5つのパーマネント作品がそろいました！

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」2024（以下「森の芸術祭2024」という。）の参加アーティストであるサンドラ・シント氏が制作していた奈義町のパーマネント（恒久設置）作品が完成しましたので、お知らせします。

当該作品は、奈義町現代美術館に併設された町立図書館の談話室内に設置され、図書館の開館日には誰でもご覧いただけます。

これにより、森の芸術祭2024でアート作品を設置した5市町（津山市、新見市、真庭市、鏡野町、奈義町）に、それぞれ一つずつレガシーとしてパーマネント作品が設置されました。

なお、本件は、県政記者クラブ、津山市政記者クラブ及び新見記者クラブに同時にお知らせしています。

#### 記

### 1 サンドラ・シント氏の作品について

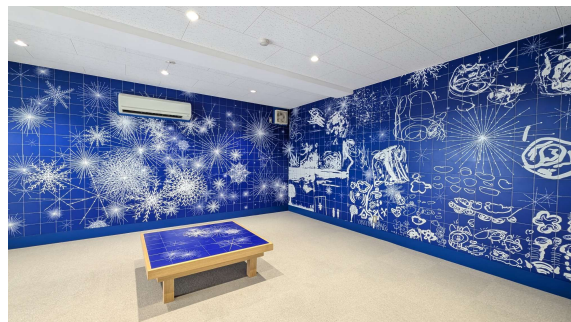
#### （1）アーティスト

サンドラ・シント（出身国：ブラジル）

#### （2）作品名

未来のための宇宙論

（英名：Cosmology for the Future）



#### （3）設置場所

奈義町立図書館 談話室（勝田郡奈義町豊沢441）

#### （4）作品概要

《未来のための宇宙論》（2024-2025）は、これまで世界各地で地元の人々や子どもたちと共に作品を制作してきたシント氏が、奈義町立図書館の談話室にて、奈義町の子どもたちと共同で新作の壁画を制作したプロジェクトである。

森の芸術祭2024では、シント氏のドローイングが施された家具を展示するとともに、子どもたちがワークショップで、「空」をテーマに描いたドローイングを併せて展示した。その後、子どもたちのドローイングとシント氏自身のドローイングとを融合させた色鮮やかなタイル壁画が制作された。アーティストのコスモロジーと子どもたちの自由な想像力が、未来を紡ぐイメージとして、談話室を華やかに彩っている。

### 2 森の芸術祭 2024 のパーマネント作品について

別添「パーマネント（恒久設置）作品一覧」のとおり

## ＜参 考＞

### サンドラ・シント (Sandra Cinto)

1968 年ブラジル生まれ。現在はサンパウロ在住。

ドローイングを出発点に、建築や彫刻、絵画、インスタレーションなどを作品に取り入れることで言語の限界を探る試みを続けている。銀座メゾンエルメスフォーラムやイタウ・カルトゥラウ（2020 年）、ダラス美術館（2019 年）、シンシナティ現代美術センター（2017 年）などで個展を開催。イニョチン、MAC/USP（サンパウロ大学現代美術館）、サンパウロ州立美術館ピナコテカ、MASP（サンパウロ美術館）、MAM（サンパウロ近代美術館）、MAR（リオ美術館）、ワシントン・ナショナル・ギャラリー、ニューヨーク近代美術館、オルブライト＝ノックス美術館、ガリシア現代美術センター、ダラス美術館などに作品が収蔵されている。2024 年 8 月末には、7 年間に及ぶプロジェクトの成果として、これまでで最大規模となる作品（音響的效果を備えた 2 点のモニュメンタルなタペストリー）がサンパウロの文化芸術劇場（Teatro Cultura Artística）の大コンサートホールでお披露目された。



©FilipeBerndt

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」2024  
パーマナント（恒久設置）作品一覧



作 品 名 | 津山ピンポン広場 Tsuyama Ping Pong Platz  
アーティスト | ジャコモ・ザガネッリ Giacomo Zaganelli  
設 置 場 所 | 城下スクエア（津山市）

《津山ピンポン広場》(2024)は、津山市の文化ゾーンの中心に位置する、かつて駐車場として利用されていた津山国際ホテル跡地に、パブリック空間として設置された屋外卓球場である。ザガネッリによれば、ドイツでは公共の屋外卓球場は、単なるスポーツの場ではなく、卓球台を囲んで飲食を楽しむなど、市民の思い思いの時間を過ごすミーティングポイントとして機能しているという。ザガネッリがデザインし、地元の職人と協働した鉄とコンクリート製の3台の卓球台と、地元木材を加工したベンチは、鶴山公園の石垣や木々の風景と調和し、地元住民やここを訪れる人々が、本作を介し交流できる和やかなコミュニケーションのためのプラットフォームとして開かれている。



作 品 名 | スタンダードカラー2024 Standard Color 2024  
アーティスト | マイケル・リン Michael Lin  
設 置 場 所 | まなびの森 新見図書館（新見市）

《スタンダードカラー 2024》は、リンが2024年のリサーチの過程で訪れた新見市の呉服店で、店主から見せてもらった草木染色図鑑に着想を得て制作された。建物2階から3階へと続く踊り場の吹き抜け空間に設置された本作は、地域の文化的モチーフを取り入れながら、図書館という公共施設に新たな視覚的な奥行きをもたらしている。



作 品 名 | あしあと Trace  
アーティスト | 妹島 和世 Kazuyo Sejima  
設 置 場 所 | 勝山町並み保存地区ほか（真庭市）

《あしあと》(2024)は、「動物のような、生き物のような椅子をつくり、人間と一緒にその場を楽しんでいるような空間をつくりたい」と語る妹島のデザインをもとに、地元企業が県産材を使用し、制作した。歩く動物を思わせる脚が特徴的であり、アニマル柄のような座面のデザインは、雨水を排水するドレイン機能があり、装飾性と機能性を兼ね備える。江戸時代からの街道のしっとりとした佇まいと、各戸にオリジナルののれんがゆれる勝山の町並み。その軒先に置かれた椅子たちは、訪問者を新しい風景へと誘う。



作 品 名 | 山に響くこだま Echoes in the Mountains  
アーティスト | ジェンチョン・リョウ Chien-Chung Liao  
設 置 場 所 | 奥津振興センター（鏡野町）

《山に響くこだま》(2024)は、自然豊かな鏡野町を象徴するヤマセミをモチーフとした高さ6.5メートルにもおよぶ大型彫刻作品である。山間部の溪流に生息するヤマセミは鏡野町のシンボルとして町の鳥に指定されており、鏡野町(旧富村一円)は、ヤマセミの生息地として岡山県指定の天然記念物にもなっている。作品の内部空間にはこの地域に広く自生するコブシの木が植えられており、木の成長と共に彼の作品はより自然と一体となっていく。本作は環境に馴染みながら、鏡野町に住む人々や、ここを訪れる人々に忘れてはならない自然からの声を聞かせてくれる。



作 品 名 | 未来のための宇宙論 Cosmology for the Future  
アーティスト | サンドラ・シント Sandra Cinto  
設 置 場 所 | 奈義町立図書館（奈義町）

《未来のための宇宙論》(2024-2025)は、これまで世界各地で地元の人々や子どもたちと共に作品を制作してきたシントが、奈義町立図書館の談話室にて、奈義町の子どもたちと共同で新作の壁画を制作したプロジェクトである。

森の芸術祭 2024 では、シントのドローイングが施された家具を展示するとともに、子どもたちがワークショップで、「空」をテーマに描いたドローイングを併せて展示した。その後、子どもたちのドローイングとシント自身のドローイングとを融合させた色鮮やかなタイル壁画が制作された。アーティストのコスモロジーと子どもたちの自由な想像力とが、未来を紡ぐイメージとして、談話室を華やかに彩っている。